

2018年（平成30年） 10月5日（金曜日）

毎週（金）14:00発行

発行所 （一財）日本エネルギー経済研究所
石油情報センター電話 (03) 3534-7411 (代)
FAX (03) 3534-7422〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌビル・カドキ11階
ホームページ <https://oil-info.ieej.or.jp>

■ 概況

9/20~9/26のNYMEX・WTIは、70.78~72.28ドルの範囲で推移した。

9月27日は、イラン原油の供給削減懸念が高まる中、23日にOPEC・非OPEC主要産油国が増産を見送ったこと、前日、ペリー米エネルギー長官が追加の米戦略石油備蓄の放出は考えていないと発言したことから、11月限終値は前日比0.55ドル高の72.12ドルだった。

週末28日は、ドル高による原油先物の割高感による重い上値の中で始まったものの、最近の需給ひっ迫感や月末・四半期末の持ち高調整による買い、中国石油大手のシノペックが9月のイラン原油輸入を半減させたとのロイター報道、さらに、ベーカーヒューズ社発表の米国内石油掘削リグ稼働数863基（前週比3基減）と2週連続で減少したことから、大幅続伸した。11月限終値は前日比1.13ドル高の73.25ドル。

週明け1日は、イランからの供給削減懸念が高まる中、メキシコに続きカナダも米国と北米自由貿易協定（NAFTA）の改訂に合意したことを好感、3営業日続伸し、2014年11月下旬以来3年10ヶ月ぶりの高値を記録した。11月限終値は前週末比2.05ドル高の75.30ドル。

2日は、イラン等原油需給のひっ迫感が根強い中、前日高値の反動の利益確定売りや翌日予定の米国在庫週報の積み増し予想で、4営業日ぶりに小反落した。11月限終値は前日比0.07ドル安の75.23ドル。

3日は、EIAの米国在庫週報で市場予想を上回る原油の積み増しの報告、サウジの増産表明で、軟化して始まったが、

イラン原油の供給懸念が深まる中、安値拾いやポジション調整の買いが広まり、反発した。11月限終値は前日比1.18ドル高の76.41ドル。

アジアの指標原油である中東産ドバイ原油/東京市場（11月渡し）は、前週76.90~79.60ドルの範囲で推移した。9月27日80.10ドル、28日80.20ドル、10月1日81.10ドル、2日83.20ドル、3日82.90ドルで推移した。

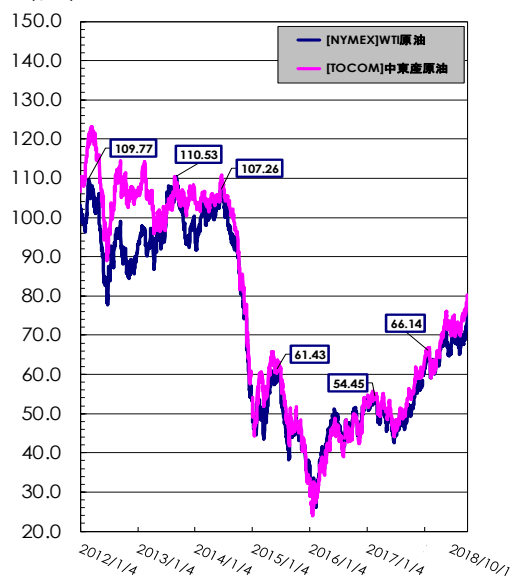
為替は、前週112.38~113.02円の範囲で推移した。9月27日112.89円、28日113.57円、10月1日113.92円、2日113.99円、3日113.61円で推移した。

主要元売会社の10月第1週に適用する卸価格は、全油種とも、1.0~1.5円の値上げとなった。原油価格はやや値上がりし、為替レートが円安で、原油調達コストは値上がりとなった。

そのような中で、10月1日時点の小売価格は、ガソリンが前週比0.9円の値上がり、軽油が同1.0円の値上がり、灯油は同14円の値上がり（18㍈ベース）だった。ガソリン、軽油、灯油ともに、5週連続の値上がりだった。この週（9月第4週）の原油コストは値上がりし、元売の卸価格はガソリン・軽油・灯油ともに全社1.0円の値上げだった。

原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	9/23 ~ 9/29	3,295 ▼ -116	▼ -
	トッパー稼働率 (%)	"	84.1 ▼ -3.0	▼ -
	原油在庫量 (千kl)	9/29	11,656 ▼ -640	▼ -
価格	中東産原油 (TOCOM) (\$/bbl)	10/1	80.16 ▲ 2.77	▲ 25.4
	WTI原油 (NYMEX) (\$/bbl)	10/1	75.30 ▲ 3.22	▲ 24.7
	原油CIF単価 (\$/bbl)	9月上旬	76.05 ▼ -0.50	▲ 24.54
	①原油CIF単価 (¥/kl)	"	52,978 ▼ -453	▲ 17,505
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	110.74 ▲ 0.23	▼ -1.26
	外国為替TTSレート (¥/\$)	10/1	114.92 ▼ -0.90	▼ -1.14

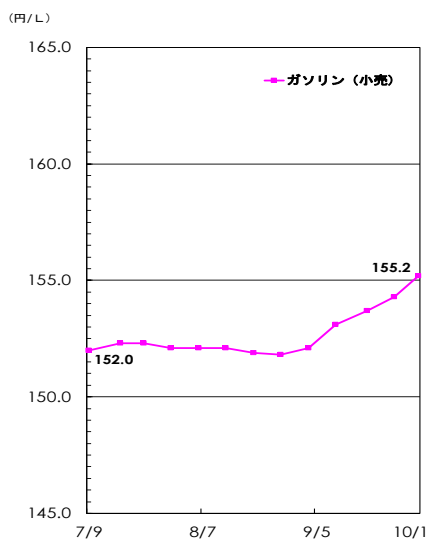
(\$/b)



(単位: 千kl、円/%)

ガソリン		今週	前週比	前年比	
需給	生産	9/23 ~ 9/29	989 ▲ 71	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	882 ▼ -16	▲ -	
	輸出	"	84 ▼ -1	▼ -	
	在庫	9/29	1,624 ▲ 24	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	9/25 ~ 10/1	71.1 ▲ 1.5	▲ 18.0	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	9/25 ~ 10/1	71.7 ▲ 2.1	▲ 17.8
		(TOCOM/中部)	10/1	71.0 ▲ 3.7	▲ 18.4
	小売 [週動向] (資工庁公表)	10/1	155.2 ▲ 0.9	▲ 21.5	

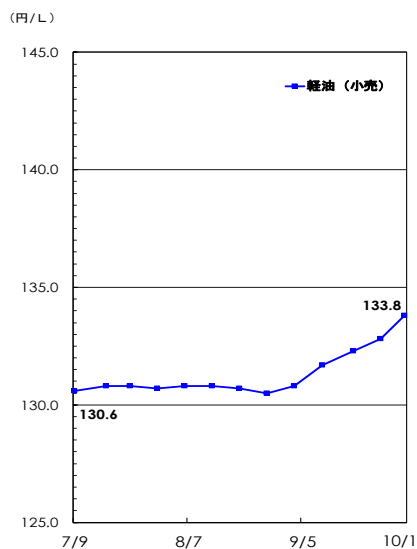
※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

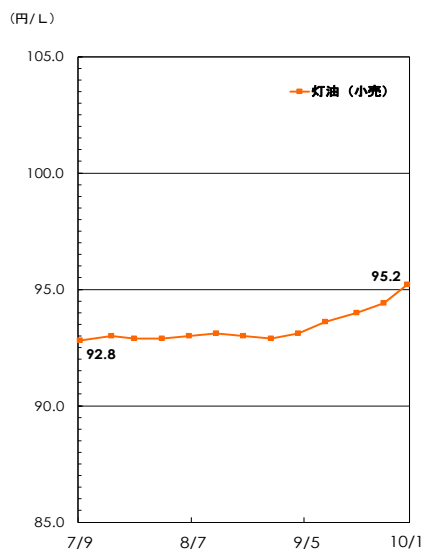
軽油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	9/23 ~ 9/29	757 ▼ -42	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	579 ▼ -51	▼ -	
	輸出	"	124 ▼ -69	▼ -	
	在庫	9/29	1,607 ▲ 54	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	9/25 ~ 10/1	72.3 ▲ 1.2	▲ 20.8	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	9/25 ~ 10/1	71.7 ▲ 0.4	▲ 22.1
		(TOCOM/中部)	10/1	-	-
	小売 [週動向] (資工庁公表)	10/1	133.8 ▲ 1.0	▲ 21.7	

※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

灯油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	9/23 ~ 9/29	312 ▲ 118	▲ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	287 ▲ 139	▼ -	
	輸出	"	0 ➡ 0	➡ -	
	在庫	9/29	2,521 ▲ 26	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	9/25 ~ 10/1	72.6 ▲ 1.4	▲ 19.7	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	9/25 ~ 10/1	74.3 ▲ 2.8	▲ 20.3
		(TOCOM/中部)	10/1	74.4 ▲ 2.4	▲ 20.6
	小売 [週動向] (資工庁公表)	10/1	95.2 ▲ 0.8	▲ 18.2	



■ 関連情報

1 海外/原油

10月3日のNYMEX市場WTI原油は、米国エネルギー情報局(EIA)の在庫週報で、国内原油在庫が市場予想(前週比200万バレル増)を大きく上回る800万バレル増加が報告されたこと、この日サウジのファリハ・エネルギー相が10月産油量を日量1070万バレルに、11月はさらに増産するとの意向を表明したことから、軟化して始まったが、イラン経済制裁再開を前にイラン原油の供給削減懸念が根強く、また、ポジション調整の買いが広がり、反発した。9月の産油国合同委員会で、サウジとロシアは、価格高騰を抑制する

ことで合意していたとの報道も一部にあった模様。11月限終値は前日比1.18ドル高の76.41ドル、12月限の終値は前日比1.20ドル高の76.24ドルだった。

EIAによると、10月1日時点のガソリンの小売価格は、前週比2.2セント値上がりの1ガロン2.866ドル(86.9円/ℓ)、ディーゼルは前週比4.2セント値上がりの3.313ドル(100.5円/ℓ)となった。ガソリンは4週連続の値上がり、ディーゼルは6週連続の値上がり。

2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、平成30年9月23日～9月29日に休止したトッパー能力は37.9万バレル/日で、前週に対して8.8万バレル/日増加した(全処理能力は351.9万バレル/日)。

原油処理量は329.5万klと、前週に比べ11.6万kl減少。前年に対しては13.6万klの減少。トッパー稼働率は84.1%と前週に対して3.0ポイントの減少、前年に対しては3.5ポイントの減少となった。

生産は前週に比べてガソリン、ジェット、灯油が増産となり、その他の油種で減産となった。ガソリン/7.8%増、ジェット/25.8%増、灯油/61.2%増、軽油/5.3%減、A重油/12.2%減、C重油/16.9%減。今週のC重油の輸入は0.9万kl(前週比1.4万kl減)。軽油の輸出は12.4万kl(前週比6.9万kl減)。

出荷(輸入分を除く)は、前週比ではガソリン、軽油、C重油が減少となり、その他の油種で増加となった。前年比ではガソリン、ジェットが増加となり、その他の油種で減少となった。ガソリンの出荷は88.2万kl(対前週1.8%減)と前週比で2週振り減少となり、4週連続で100万klを下回った。ジェット15.0万kl(対前

週62.8%増)、灯油28.7万kl(対前週93.5%増)、軽油57.9万kl(対前週8.1%減)、A重油20.7万kl(対前週5.8%増)、C重油14.8万kl(対前週31.9%減)。

(単位:千KL)

	今週 (9/23 ~ 9/29)	前週 (9/16 ~ 9/22)	前週比
ガソリン	882	898	▼ -16 (-2%)
ジェット燃料	150	92	▲ 58 (63%)
灯油	287	148	▲ 139 (94%)
軽油	579	630	▼ -51 (-8%)
A重油	207	195	▲ 12 (6%)
C重油	148	217	▼ -69 (-32%)
合計	2,253	2,180	▲ 73 (3%)

※今週出荷量=(前週末在庫+今週生産+今週輸入)-(今週輸出+今週末在庫)

2 国内/製品需給 (2) 在庫

9月29日時点の在庫は、ジェット、A重油、C重油が取り崩しとなり、その他の油種で積み増しとなった。前年に対してはガソリン、ジェット、A重油が取り崩しとなり、その他の油種で積み増しとなった。

ガソリンは162.4万kl、前週差2.4万kl増。前年に対しては5.7万kl少ない。

灯油は252.1万kl、前週差2.6万kl増。前年に対しては12.5万kl多い。

軽油は160.7万kl、前週差5.4万kl増。前年に対しては28.9万kl多い。

A重油は68.3万kl、前週差2.8万kl減。前年に対しては4.2万kl少ない。

C重油は207.8万kl、前週差5.1万kl減。前年に対しては4.8万kl多い。

(単位:千KL)

	今週 (9/29)	前週 (9/22)	前週比
ガソリン	1,624	1,600	▲ 24 (2%)
ジェット燃料	896	1,038	▼ -142 (-14%)
灯油	2,521	2,495	▲ 26 (1%)
軽油	1,607	1,553	▲ 54 (3%)
A重油	683	711	▼ -28 (-4%)
C重油	2,078	2,129	▼ -51 (-2%)
合計	9,409	9,526	▼ -117 (-1.2%)

3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

9月25日から10月1日の原油価格は前週対比でやや値上がりし、為替レートも円安で、原油コストは値上がりしたものと見られる。

陸上スポット価格は、同期間、ガソリン123～126円台で大きく値上がり、軽油71～73円台で大きく値上がり、灯油71～73円台で大きく値上がりして推移した。

海上スポット価格は、同期間でガソリン126～128円台で

値上がり、軽油73～74円台で横ばい後値上がり、灯油73～75円台で大きく値上がりして推移した。

先物価格は、同期間で、ガソリン124～127円台で大きく値上がり、軽油71～72円台で値上がり、灯油73～75円台で大きく値上がりして推移した。

元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに、全社2.5円の値上げとなった。

3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

製品スポット市況は、先週に続き、全油種・全取引で値上がりした。油種としては灯油の値上がりが大きく、取引としては先物の値上がりが大きかった。

10月第2週(10月4日～10月10日)適用の元売卸価格に影響を与える直近の陸上スポット価格(9月25日～10月1日千葉、川崎、中京、阪神の4地区の陸上ラック価格平均値)は、ガソリンは1.5円の値上がり、灯油は1.4円の値上がり、軽油も1.2円の値上がりだった。

東京湾渡しの海上スポット平均価格は、ガソリンが0.7円の値上がり、灯油も2.9円の値上がり、軽油も0.1円の値上がりだった。

先物価格は、ガソリンが2.1円の値上がり、灯油も2.8円の値上がり、軽油も0.4円の値上がりだった。

原油価格は大きく値上がりし、為替も円安で、原油コストは大きく値上がりした。

10月第2週の大手元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに、全社2.5円の値上げとなった。なお、元売会社は、2010年から卸価格の改定に際して、原油や製品相場社仕切りなどの動向を総合的に判断する方式としたが、2014年6月から、原油調達コストをより重視する方式に変更した。

(RIM) (単位: 円/%)

[陸上ローリー4地区平均]	今週 (9/25 ~ 10/1)	前週 (9/18 ~ 9/24)	前週比
レギュラー	71.1	69.6	▲ 1.5
灯油	72.6	71.2	▲ 1.4
軽油	72.3	71.1	▲ 1.2

(TOCOM) (単位: 円/%)

[期近物/終値] [平均]	今週 (9/25 ~ 10/1)	前週 (9/18 ~ 9/24)	前週比
レギュラー	71.7	69.6	▲ 2.1
灯油	74.3	71.5	▲ 2.8
軽油	71.7	71.3	▲ 0.4

※上記価格は税抜き価格

参考値 (9/25～10/1実績値) (単位: 円/%)

油種	現物	先物	平均
ガソリン	▲ 1.5	▲ 2.1	▲ 1.8
灯油	▲ 1.4	▲ 2.8	▲ 2.1
軽油	▲ 1.2	▲ 0.4	▲ 0.8
A重油	▲ 1.0		

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上/バージ渡し平均価格

4 国内/製品小売価格

10月1日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比0.9円高の155.2円、軽油も同1.0円高の133.8円、灯油は同0.8円高の95.2円(18%ベースでは14円高の1,714円)だった。ガソリンは5週連続の値上がり、軽油も5週連続の値上がり、灯油も5週連続の値上がり、ガソリンは3年10ヶ月ぶりの高値水準、5月28日以来19週連続で150円を上回った。都道府県別に、ガソリンの値上がりは46都道府県、横ばいはなく、値下がりには1県であった。全国最安値は、埼玉県の150.0円(前週比0.3円高)、次が、徳島県の150.9円(前週比0.6円高)、最高値は長崎県の164.9円(同1.7円高)で、全都道府県が150円台以上となった。最も値上がりしたのは、5.0円高の高知県

(159.0円)、最も値下がりしたのは0.1円安の滋賀県(153.5円)だった。

先週の原油コストは値上がりし、元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに全社2.5円の値上げとなった。今週の原油価格は大きく値上がりし、為替レートも円安で、原油コストは大きく値上がりした。次週(10月9日)のガソリンの小売価格は、値上がりが見込まれる。

(単位: 円/%)

(資工庁公表) [週動向]	今週 (10/1)	前週 (9/25)	前週比	直近高値
レギュラー	155.2	154.3	▲ 0.9	08/8/4 185.1
灯油	95.2	94.4	▲ 0.8	08/8/11 132.1
軽油	133.8	132.8	▲ 1.0	08/8/4 167.4

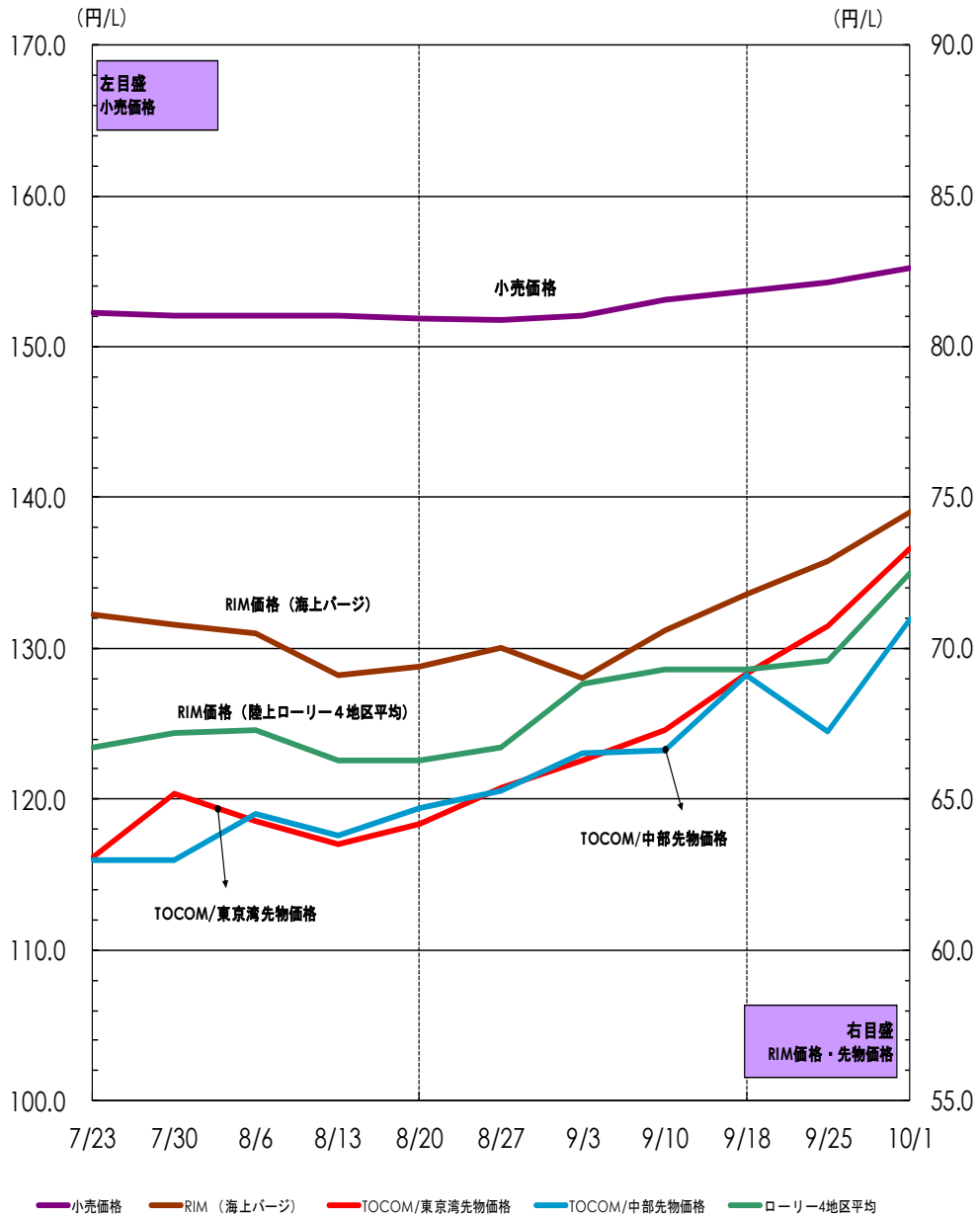
※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2003年10月以降の最高値。

ガソリン価格推移

(2018/7/23 ~ 2018/10/1)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格
 ②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<https://oil-info.ieej.or.jp>) にも掲載しています。
次回(2018第26号)の公表は、10/12(金)14:00です。

「セルフSS出店状況」(平成30年3月末現在)は、7月31日(火)14:00に公表しました。当センターのホームページをご覧ください。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報(以下、併せて「ドキュメント」)に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター(以下、当センター)又は当センターへドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。

当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。

また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。

当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層(特に給油所経営に携わる方々)から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟(石連)「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。

「出荷」は当センターの推計。

②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所(New York Mercantile Exchange: NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。

中東産原油は、東京商品取引所(The Tokyo Commodity Exchange: TOCOM) 中東産原油の期近物・終値を採用。 ※「二番限(翌月限)」

中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱東京UFJ銀行発表TTM(Telegraphic Transfer Middle rate: 中値)を採用。

原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値)を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社(一次卸)と系列特約店など(二次卸)との間で売買される卸価格。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社(RIM)「LORRY RACK・レポート」の千葉、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用。

⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾 及び中部石油製品期近物・終値を採用。

TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格(平均値)、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格(平均値)。

⑥【国内製品・小売価格】〈週動向調査〉

約2,000SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用(資工庁公表)。原則として、毎週(月)時点の価格を調査し(水)14:00に公表(資源エネルギー庁-HPIに掲載)。